



令和2年3月27日

平成31年度 東京都立田無工業高等学校
学校経営報告

東京都立田無工業高等学校
校長 早川 忠憲

1 平成31年度学校経営計画の実施状況（概要）

本校は、東京都教育委員会よりデュアルシステム導入校の指定を受け、活動内容の充実と実施体制の整備を図るとともに、以下の項目毎に活動内容を設定し学校経営を行った。

- (1) 基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成
- (2) キャリア教育の推進
- (3) 心身の健康づくり及び安全教育の推進
- (4) 基礎的・基本的な学力の向上
- (5) 社会に求められる技術者の育成
- (6) 特別活動の充実
- (7) 募集活動の推進
- (8) 地域連携の推進

デュアルシステムでは、生徒参加率の向上のため、独自のデュアルシステム体制を構築し、長期就業訓練の受け入れ企業の開拓と生徒の希望とのマッチングを図った結果、65%の生徒参加率を達成した。

2 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

| 取組目標 | 具体的取組(方策・目標) | 成果と課題 |
|--------------------|--|--|
| 学習指導の充実 学力向上の推進 | <ul style="list-style-type: none">・学力・技能スタンダードの策定・学力向上推進プラン(測定する学力の検討)・基礎学力(義務含)向上のための取組・進学に対応した教科指導の充実・資格取得指導の充実・読書活動の充実・体力向上のための取組・言語活動の充実・オリンピック・パラリンピック教育の取組 | <ul style="list-style-type: none">・学力スタンダードについては、教科毎に策定を進め、記載内容や評価基準あり方などを改善した。また、昨年作成した学校独自の技能スタンダードを活用し生徒の専門知識や技能の学習状況を把握することができた。・基礎学力向上のための取組としては、中学校レベルから丁寧に指導してきた。・進学に対応した教科指導については、基礎学力テストをもとに、教科担任や進路指導部中心に個別対応した。・資格取得では、19種類710名の生徒が挑戦し、583名が資格・検定に合格した。しかし、組織的な指導体制を改めて構築し直し、資格・検定に合格率の向上につなげたい。・読書活動では、国語科を中心に課題図書等を設定するなどして読書率の向上につなげた。また、昨年と同様にビブリオバトルに向けた取組も展開した。・パラリンピック教育の一環として西東京市と連携して、車いすバスケットボール体験やパ |

| | | |
|--------------------|--|---|
| | | <p>ラリンピックアスリート(オランダ代表)の講演会などを実施した。さらに、ポッチャ競技のランプの制作を行い、特別支援学校に寄贈するとともに競技補助等を行った。</p> <p>【B】</p> |
| 生活指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・髪型・服装・身だしなみ指導の充実 ・交通安全（自転車）指導の充実 ・いじめ等の被害状況の把握と指導 ・薬物乱用やネット利用に関する指導の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律週間を学期に1回実施し、生徒の学習態度を改善した。 ・髪型・服装の検査を定期的に行い指導した結果、違反する生徒は、ほぼいなくなった。 ・自転車通学者に、始業式や終業式、全校集会などを通じて安全指導を徹底した。 ・いじめの疑いがある場合、アンケート調査（年3回）や聞き取り調査を実施し、指導の徹底を図ることで、再発防止してきた。 ・薬物乱用防止教室を実施した。 <p>【B】</p> |
| 進路指導の充実とキャリア教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路未決定率 0% ・デュアルシステムへの参加率 20% ・進路講演会・体験発表会等の企画・実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・就職一次内定率 70%を超え、進路未決定率は 0%となった。 ・デュアルシステム I 期の参加者 113 名、受入企業 102 社であった。 ・進路講演会等の取組は計画とおりに実施することができた。よって、生徒の進路意識の向上につなげることができた。 <p>【C】</p> |
| 健康・安全 特別支援教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の充実（教員研修含） ・校内美化・分別ごみの徹底 ・予防接種等の啓発 ・発達障害に関する校内体制の整備 ・障害等がある生徒に関する対応 ・SC等と連携した相談機能の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校から定期的にコーディネーターを派遣してもらい、特別支援教育の理解に深めることができた。 ・予防接種の啓発は年間を通じて実施することができた。 ・発達障害に対応した教員研修3回を実施し、教職員の発達障害に対する意識の変化につなげられた。 ・障害がある生徒等に対する指導について、学年・学科・養護教諭・SCと情報交換会を年間5回実施し、個々の生徒に適切な対応できた。 ・SCとの相談体制を維持することができた。 ・特別支援教育心理士、中学校、医療機関、児童相談センター、子ども家庭支援センター、東京都の自立支援チーム、就労相談センターと密に連携し、生徒に対応した。 <p>【B】</p> |
| 防災教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した宿泊防災体験の企画・実施 ・地域の防災訓練等への参加 ・生徒防災委員会の活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内における宿泊防災体験を1学年で実施した。 ・地域との連携では、田無消防署協力で、1学年全員に上級救命救急講習を受講させた。 ・避難訓練を4回実施した。 <p>【B】</p> |
| 広報活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動に関する全体計画の作成・実施 ・学校説明会等の企画・実施 ・中学校訪問等の企画・実施 ・リーフレット・HPの魅力と質の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・HPは1000回以上更新した。学校見学等への参加者は例年より増加し、応募対策に結びつけることができた。 ・学校見学会3回、学校説明会4回、在校生による中学訪問、体験授業9回、中学校技術科 |

| | | |
|----------|--|---|
| | | 教員対象ものづくり教室などを実施した。 【A】 |
| 特別活動等の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 部活動への加入促進 田無工五輪・田無工祭の充実 生徒会活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 田無工五輪（体育祭）、文化祭（田無工祭）本校の特徴を最大限にいかした行事となり、日頃の活動の成果が見られ、昨年より見学者を上回ることができた。 学校説明会等では、生徒会、部活動生徒による案内などの手伝いにより来校者から評判が良かった。 生徒会及び歩く建築同好会などの生徒が地域の児童館でのものづくり教室やイベント等に参加し、地域から高い評価を得た。 【B】 |
| 学校運営の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 夏休み工作スタジオの充実 個人情報等の管理とシステムの構築 予算執行率の向上と予算計画の修正 | <ul style="list-style-type: none"> 夏休み工作スタジオ3科で実施体制を整え、100名規模で実施した。 考査問題の管理体制を再構築し、答案紛失などを防止できた。 予算執行については、概ね例年並みの実行状況を維持している。 【C】 |

A：大きな成果が得られた B：昨年度より前進した C：昨年度並み D：取組や成果に課題が残る

(2) 重点目標への取組と自己評価【B】

- ① 一般入試倍率については今年度1.2倍以上を数値目標に取組を進めた結果、1.15倍と健闘した。結果は、機械科が1.21倍、都市工学科が1.48倍、建築科が0.93倍であった。今年度は、文化スポーツ推薦（硬式野球）は、2.40倍であった。次年度は、さらに本校への理解を促進するために出前授業、出前学校説明会、中学校訪問を全教員で徹底し中学生やその保護者の興味や関心を高めさせる。
- ② 中途退学率については0%を目標に取り組みを進めた結果、今年度は1名のみとなり、目標は達成した。また、転学した生徒も減少した。原因として、全教職員が生徒一人一人に対して丁寧な指導、わかりやすい授業、学習活動において理解不足の生徒への補習などを行った結果である。
- ③ 進路未決定率については、ほぼ0%となり、目標は達成した。

3 次年度以降の課題と対応策

- (1) 学習指導の充実と学力向上については、日常の学習支援が必要な生徒が多く在籍しているため、補習の充実や学び直し対策を行う。具体的には、組織的な対応のもと、学習活動や学習支援を担任と教科担当が情報を共有し、放課後や長期休業中の補講など活用し学習の不足を補うなどの活動を展開する。学力向上については、学力・技能スタンダードを活用する。
- (2) 生活指導については、日頃より頭髪・服装指導などを徹底し授業規律の乱れの防止を図る。具体的には、朝の立ち番指導や授業規律週間など設定し、組織的な対応を行う。今年度と同様に、授業規律週間などの具体的な指導を明らかにし、生活指導部と教科・学年との連携を図り、組織的な指導体制を構築する。
- (3) 進路指導の充実とキャリア教育、デュアルシステムの推進については、デュアルシステム担当教員を中心に全教職員で取り組んでいく。4年制大学進学希望者は、わずかであるが手厚く指導し、さ

らに進学後の状況を踏まえ、一定の進学準備の基準を設け指導する。キャリア教育はデュアルシステムを中心とした計画とし、制度の改善と実施体制を整備していく必要がある。次年度は、長期就業訓練への参加割合を70%に設定し、協力企業と連携を強化し推進していく。

- (4) 健康・安全と特別支援教育の推進については、毎週水曜日に年間38回のSC相談を実施した。相談件数は、生徒38件、保護者8件、教員81件 計127件であった。今年度は保健相談部、SC、外部機関等と保護者との連携が比較的うまく取れ、学校側の情報の共通認識の形成や組織的な対応もできた。次年度SCとの全員面接の実施などを有効に活用し、学校と家庭との連携を強化し、保健相談部、学年などによる情報交換会や担当者会議の活性化を図り、学習支援の体制をさらに強化していく。
- (5) 広報活動の充実については、募集対策を中心に据え、応募倍率の更なるアップに努める。募集対策は、HPやSNSを通じて学校生活の様子を積極的に発信する。また、学校見学会、学校説明会、出前授業、ものづく教室、中学校訪問、出張学校説明会などを積極的に行い、本校の良さをアピールしていく。また、専門学科に対する理解の促進を図る必要があることから、今年度作成した学校パンフレットやポスターなどを活用し、本校のイメージをさらに高める。